［認知症対応型共同生活介護用］

1．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成19年10月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2072800655		
法人名	社会福祉法人　孝明		
事業所名	グループホーム　かじか庵		
所在地	長野県安曇野市穂高２５３１番地３ （電　話）　0263－82－1323		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1-35-5		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	平成19年11月22日

【情報提供票より】（平成19年10月18日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤12人，　非常勤　3人，　常勤換算12.1人	

（２）建物概要

建物構造	鉄筋コンクリー 造り
	1階建ての　～　1階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	10,000　円		その他の経費（月額）	25,000 円
敷　　金	有（　　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	180　円	昼食	400　円
	夕食	200　円	おやつ	120　円
	または1日当たり　900　円			

（４）利用者の概要（平成19年10月18日現在　）

利用者人数	18 名	男性　1 名	女性　17 名
要介護１	2	要介護２	5
要介護３	7	要介護４	4
要介護５	0	要支援２	0
年齢　平均	80.6 歳	最低　61 歳	最高　89 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	・安曇野赤十字病院　　・穂高病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域の住民に親しまれるホームを目指し、ホームを囲むようにある“かじか公園”から“かじか庵”と名づけられた。入居者の居室からは公園内で遊ぶ子供たちの姿や木々を見ながら四季を感じることもできる。また、外に出ると北アルプスが遠くに望める。ホームの中では冷暖房で季節を感じられないからと、各居室には季節の花を飾ったり、折り紙を使って季節感を創りだす工夫がされている。ワンフロアをうまく区切って入居者の居心地の良さを作り出していることや、３つの居室毎にトイレが設置されているなど、入居者への心遣いが窺える。外観は併設施設に合わせた施設風な建物であるが、中に入ると料理をする音やテレビの音、そしてふんだんに木を使用した内装など、家庭的な雰囲気が充分にあり、施設の延長でないサービスが提供されている居心地の良いホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回評価で「ホーム機能の地域への還元にむけて」の期待事項があったが、ホーム運営推進会議において地域の代表の方、行政の代表の方に意見等をいただきながら検討がされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	ユニット毎に全職員で話し合い自己評価を行っている。自己評価の意義や目的を理解しており、職員各々が自己のケアを見直し、再確認するようにしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	３ヶ月毎定期的に会議が開催されている。会議ではホームでの入居者の様子や行事報告、事故報告、取り組み等を報告し話し合いをしている。家族の代表者が福祉に携わっていることもあり、会議では活発な意見交換が行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。面会時や電話で日頃の様子を伝えたり、年一回家族会を開催し、積極的に意見を伺うようにしている。また、寄せられた意見や要望等は会議で検討しサービスの向上に役立てている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	ホームを囲んでいる公園をふれあいの場として地域の住民や子供たちと積極的に交流している。また、農作業中の人からも気楽に挨拶をしたり声がかかるなど、顔見知りの住民も増えてきている。

２．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者一人ひとりの暮らしの継続を確保していくことや自律した生活が営むことができるよう具体的な目標を掲げ支援している。新たに始まった地域密着型サービスの理念と役割を意識しながら日々のケアに努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の合同集礼時には、方針や目標などが報告される。また、施設長の訓示もある。日々のサービス提供場面において管理者、職員は何を大切に入居者に向き合うかを意識しながら日々取り組んでいる。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームを囲むように公園があり、その公園には地域住民や子供たちが大勢訪れている。入居者らも職員と毎日のように公園に散歩に出掛け、挨拶や会話をするなど積極的に交流している。畑で農作業中の人からも気楽に声がかかるなど顔見知りの住民が増えている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で話し合い、自己評価を行っている。評価を行いながら職員らは自らの仕事を振り返り見直しが出来た。また、看取りや徐々に重度化した入居者の対応等についても検討会を開いている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	３ヵ月毎定期的に会議が開催されている。家族の代表者が福祉に携わっている事もあり、会議では活発な意見交換がされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の代行申請の依頼があれば家族に代わって市町村の窓口を訪れている。また、法人の管理者が包括支援センターの運営委員になっているので、市町村担当者との関係づくりが出来ている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に健康状態や日々の生活の様子等を電話で報告している。また、金銭管理に関しては領収証が添付された金銭帳を面会時に明示し、確認の上サインを頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で日頃の様子を伝えた後、何でも言ってもらえるような雰囲気作りをしている。年一回開催されている家族会でも意見を積極的に伺うようにしている。出された意見、要望等は話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔馴染みの職員によるサービスの提供が大切であると考えている。異動については必要最小限に抑えられている。職員が代わる場合は新人ではなく、経験をつんだ職員が配属され、引継ぎの面でも入居者へのダメージを防ぐ努力をしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修には交替（指名）で参加している。研修内容はミーティング等で発表している。また、併設施設の勉強会や研修には全職員誰でも参加出来るので、充分学べる環境づくりがされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホームの集まりに参加して情報交換をしている。今後は勉強会や交流を持つ計画がありサービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して利用できるように体験利用や職員が本人のところまで出向くなど時間をかけた上で利用を開始している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は年長者である入居者を人生の先輩として尊敬している。入居者から畑の野菜づくり、料理の仕方など日頃から教えてもらうことが多い。入居者が意欲的に満足しながら生活できるように声がけや、場面づくりをしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中で一人ひとりの思いや暮らし方などの把握に努めている。意思疎通が困難な場合には、入居者の生活歴、趣味、信仰、習慣、健康法などを把握し、それらの情報を基に入居者本位に検討している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ホームでの暮らし方や意向は入居者、家族から確認している。職員の意見や気づき、アセスメントを基に担当者によって個別に介護計画が作成されている。介護計画は家族に説明され確認も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画にそって定期的に実施状況が報告され見直しを行っている。状態が変わったり計画が実行できなくなった場合には随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	送迎サービス、買い物、通院など家族に代わって職員が付き添っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医との関係を継続している。通院は家族が付き添っても職員が付き添ってもホームでの健康状態は看護師から医師に手紙で報告している。健康状態や診療状況等は面会時や電話・手紙で家族に報告されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び看取りに関する指針が作成されている。読み合わせをして全職員で共有している。新たに病気を発症したため、重度になった入居者に対し、医師とも相談しながら職員間で繰り返し話し合い家族の意向にそう支援を行っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護、プライバシーの保護については就業規則に謳われており、入職時には説明を受け、誓約書を提出している。日々の関わりの中で職員は入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールはおおまかに決まっているが、その日の天候や入居者の気分等で変更しながら入居者のペースで生活できるように支援している。入居者が散歩を忘れている時などは単に促すのではなく、場面作りをしたり、入居者が自ら気づくような声かけに工夫している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように入居者の力量に合わせ食事の準備や片付けをしている。仲の良い入居者は席が隣りになるように配慮している。職員も一緒に食事をしながら話しかけ、楽しい食事になるような雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日準備している。入浴を嫌がる入居者はいるが、無理強いせずに次の日や気分の向いた時に入浴できるように工夫している。一日三人づつ毎日交代で入浴している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、食後の片付け、洗濯干しや洗濯物たたみ、畑での野菜作り、収穫など、一人ひとりの力量に応じた役割がある。また、針仕事を得意とする入居者は布針の刺し子を楽しみ、字を書く入居者は毎日日記をつけている。刺し子の布巾は玄関先に飾られていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームを囲むようにある“かじか公園”へ毎日散歩に出掛けている。入居者の希望に合わせほぼ毎週のように車で買い物に出かけ、また、お花見、紅葉狩りなど月に一回行楽ドライブも兼ね外出の機会を積極的に取り入れている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在、外出傾向の入居者が複数いるためご家族に説明し、了解の上やむを得ず玄関に鍵をかけている。関係業者や面会者について入居者が外出してしまう事もあるので、一人ひとりの行動パターンを把握、見守り、定時の所在確認を実施している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域住民等の協力を得ながら年３回防災訓練が併設施設で行われているので入居者と共に参加している。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士のたてた献立を参考にしている。摂取状況は毎回チェック表に記録し、水分量については大まかに把握しているが、飲水量が少ない入居者に関しては、チェック表をつくり、飲水量を調べ、量の確保に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明りとりの天窓からはやわらかい秋の陽ざしが差し込んでいた。食堂、居間はワンフロアーになっているが、しきり戸や壁がある為、テレビのある居間、一段高いところの大きな座卓が置かれた畳の部屋、そして食堂にと分けられている。入居者は視線を感じることなく思い思いの場所で居心地よく過ごしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は16㎡と基準より広くゆったりとしている。ベッドの他にテーブルと椅子、または座布団が敷かれていた。家族は面会時に入居者の居室で過ごす事もある。居室には家族の写真や人形等の小物、タンス、回転椅子などが持ち込まれて入居者が安心して過ごせるように工夫されていた。		

※ ▒ は、重点項目。